

# 日曜随想

「だいちゃん農園」としてリンゴ農家を営むわが家。無袋ふじの収穫と梱包に追われていると、今年もあと半月余りになった。また一年が、あっという間に終わる。

今年のわが家のリンゴはサクランボ同様に春の霜に当たり、出来栄が危ぶまれた。リンゴを作って65年となる95歳の母は「こんな表面がガサガサで小さいリンゴは初めて」と嘆く。それでも味は例年以上にいい。母は寒い小屋の中で選別し、黙々と箱に詰めている。

年が、研修として2週間にわたり訪れた。新型コロナウイルスの状況をみて、ようやく来られたという。青年は私の長男と同じ30歳で、母と2人暮らし。父親のギャンブル依存による両親の離婚、自身のニートなど、つらい経験をしたと話してくれた。青年の仕事ぶりは真面目だった。その姿を見た夫は、農園の片腕となってくれるかもしれないと期待を膨らませた。町内を自由に移動できるようミニバイクを貸し、食事と一緒に取った。長男がそばにいてくれるような喜びがあったのかもしれない。

夫はリンゴ作業が後半になると過労で足腰にしびれ

## 出合い交流、これからも

が出る。今回は青年が作業を助けてくれるおかげで、少し良くなった。夫は青年に、大阪の母親へ自身が収穫して梱包したリンゴを送ってあげたらどうだいと話した。彼は笑顔を見せて感謝を口にした。男2人で一日の疲れを癒やしに町内のりんご温泉で湯につかり、裸の付き合いを楽しんだ。

### ゲストハウスオーナー

## 志藤一枝

でも、何人もの青年が朝日町を訪れるきっかけは何だろうか。スマートフォンなどのゲームの中の「辻野あかり」というキャラクターが、山形県のリンゴ農家出身の15歳という設定なのだ。彼女のファンが来県し、

類は友を呼ぶかのように山梨県からも同じような境遇の24歳の青年が、収穫をやってみたいと電話をかけた。大阪の青年と入れ替わるように到着すると、休む暇もなく収穫体験に入り、梱包作業も行った。彼は数日間滞在した。リンゴに興味があるにし

各地の観光名所を訪れている。特にリンゴのまち朝日町を聖地のように見なしてツアーを組んで訪れ、リンゴ畑であかりちゃんの誕生会を開いたこともあった。彼らはリンゴの品種、特徴、収穫時期まで、このアイドルから学習済みだ。彼女の熱烈なファンという男

性は、ゲームがきっかけでわが家のゲストハウスに4回滞在した。彼が、蜜が多くなるリンゴ「高德」についてツイートをすると、あかりちゃんファンに広がり一晩で完売する勢いとなった。

若者のリンゴファンが増えることは、生産者にはうれしい限りだ。きっかけはどうあれ、収穫体験や滞在をしてくれることが、観光産業の活性化にも大きく寄与するはずだ。

本欄で何気ない日常をつづる中で、新たな出会いがたくさんあった。コロナ禍で気を付けながらも、母への心遣いや励ましの言葉と一緒に、わが家まで来てくれた方も多い。感謝に堪えない。来年こそは国内外から何の制約もなく農園に来てもらい、農業を体験し、ゲストハウスで田舎暮らしを満喫できる日常が戻ってくることを切に願う。

これからも、こうした交流を通じて、さらに山形の魅力を世界に発信していきたい。ありがとうございました。Thanks a lot. (朝日町)